

## 第8回有識者委員会 議事要旨

1. 日時:平成30年10月18日(木)9:55~12:05

2. 場所:日本宇宙フォーラム 第1、2会議室

3. 出席者

(1)委員

永井委員長、岡町委員、奥村委員、佐宗委員、種家委員、西島委員、山本委員

(2)JAXA/事務局

若田光一、小川志保、白川正輝、吉崎泉、坂下哲也、永井直樹、加藤充康、鈴木和哉 他

4. 議事要旨

各議題において委員より頂いたご意見を、今後の利用戦略、利用計画へ取り込むよう検討する。主な議論及びご意見は以下のとおり。

(1) 本委員会の役割、および当面の活動内容について(報告)

委員会運営、当面の活動内容等について、了解された。

(2) きぼう利用テーマの状況(報告)

タンパク結晶実験、科学研究などの募集、利用促進、JAXAの広報活動等について議論があった。科学研究の利用促進については、物質・物理科学では、材料がネックとなっている課題を網羅的に調査して課題を組織的に調査すること、生命医科学では、ニーズ/マーケット調査を行い、テーマを設定しコンソーシアムを組みプロジェクトを進めることがよいという旨のご意見があった。

(3) ISSを巡る状況とJAXAの取組み(報告)

小型衛星放出などの成果の発信について、放出したというイベントや数の紹介に留まらず、衛星自体の機能や役割などを含め積極的に成果のアピールを行うべきとのご意見があった。

(4)「きぼう」利用の目指す姿に向けた取組み状況について(討議)

当面の4つのプラットフォーム(PF)及び新たなPF候補の取組み状況について議論があった。特に、加齢研究支援PFについては、マウス研究環境の拡充、データ/バイオバンク整備、意義や社会保障費抑制等のアピールに結び付く名称設定が必要等のご意見があった。新薬設計支援PFについては、今後はタンパク間相互作用の研究への取組みが重要となる旨のご意見があった。また、JAXAの広報活動について、民間企業等が行う自社宣伝の手法を踏まえ、ご意見を頂いた。

(5)平成30年度きぼう利用プロモーション活動～効果・分析～(報告)

きぼう利用プロモーション活動に対し、加齢や老化の問題のように研究の核心をナラティブに語る取組み非常に重要であり、成果の発信として知的好奇心を刺激するようなもの、中高生が読めるような冊子があるとよい。きぼうで実施している利用(超小型衛星放出や技術実証)が、分野全体の大きな流れの中のどういう位置づけにあるかを説明する必要がある等のご意見を頂いた。

以上